

第173回 福島県北地区障がい福祉連絡協議会定例会次第

日時 2022年8月25日(木) 10時00分~11時50分

場所 ZOOM 会議

【配布物】①第172回定例会報告書 ②第173回定例会次第

議 題

○福島障連協の会員の現状について
会員数: 50

○報告事項
第172回定例会報告書について

○協議
① 第17次アンケート調査について
② 研修会について(日時・開催方法・内容)

○情報交換

【次回】 第174回定例会 令和4年9月29日(木) 10:00 ~ 11:50 場所: ZOOM

第 172 回 福島県北地区障がい福祉連絡協議会定例会報告書

日 時 2022 年 7 月 28 日(木) 10 時 00 分～12 時 40 分

場 所 ZOOM 利用によるオンライン開催

参加者 父の夢:古川 おおぞらの夢:岡崎 ポネール:谷野 けやきの村本部・相談:舟山 青松園:野地
なのはなの家:佐野 ぼけっと:吉田 ILセンター:長澤 大生信夫の里:木戸 もちずりワーク:千葉
旅行を考える会:孝浩 大萱荘:渡部 きらら:黒田

配布物 ①第 172 回定例会次第 ②第 171 回定例会報告 ③要援護者支援パッケージプロジェクト会議資料 ④第
17 次アンケート素案 個人・事業者・市町村各方面用(1 次修正案)

議 題

○福島障連協の会員の現状について
会員数:50

○報告事項

① 第 171 回定例会報告書について
訂正を要する箇所等なし。

② 福島県立だて支援学校見学会について
7/6(水) 22 名(含む介助人)にて訪問。

③ 福島駅東口再開発事業における、当事者・関係者からの意見聴取について

舟山氏から市障がい福祉課への問い合わせの結果、機会設定を検討している旨、障がい福祉課菊地氏から回答あり。

問い合わせいただいた方には、本会 HP および利用する事業所を通じて上記の件回答している。進展あればまたこの場でも共有する。

④ 要援護者支援パッケージプロジェクト会議について(資料参照:舟山氏・古川氏出席)

古川… ①対象者の把握とプラン策定 ②福祉避難所確保 ③地区防災計画 と大きく 3 つの柱があり、①と③には福祉事業者の参画が掲げられている。水害想定区域に住まう対象者は約 30,000。うち 16,000 の方がプラン未策定ということ。それらの方々について、根拠を伴ったかたちのデータ提供を求めている。

市の計画では、渡利・吉井田・上鳥渡各地区の避難マップ作成、並びに、永井川・鎌田地区の地域防災計画作成を今年度中に完了させるということ。

舟山… それぞれの事業所が所在する地区において、地域との協力組織の整備や要支援者の避難プランなど、市の主導を待たず出来るところから着手してよいかとの質問をしたところ、それでよいという見解。危機管理室からの新しい避難プランの様式や対象者のデータなど、危機管理室から得ている。障連協会員にも提供したい。

孝浩… この会議の資料だが、伊達市障がい福祉課への提供もしておく。これにより伊達市における避難支援計画整備の加速化に期待したい。

○協 議

① 第 17 次アンケート調査について(配布資料参照)

前回定例会からの修正箇所

● 個人用アンケート

- ・問 5 - (4) - ② 回答項目の「外出…」の項を最上段に変更。
- ・問 9 - (2) の質問文中、福島市内の福祉避難所数について“47ヶ所”を“49ヶ所”に訂正。

● 市町村用アンケート

- ・字体の違いを修正

● 事業所用アンケート

- ・問 1- (5) 日中活動予定日数 令和元(2019)年度は誤り ⇒ 令和4(2022)年度に訂正。

○情報交換

吉田[ぼけっと]

7/12 外出行事実施。道の駅ふくしま施設内店舗の見学や、食事を楽しんできた。

だて支援学校は素晴らしい校舎だった。大きなスロープは幅や傾斜が適切と感じた。有事の際の(効率的な)避難に役立つだろう。生徒それぞれの状態に合わせた授業の形態を見ることができ有意義だった。新しい校舎での学びに、生徒たちがより生き生きと臨む姿に先生方の喜びも大きいようだった。

夏休みに合わせ近所の学童保育利用の子供たちを対象に『籠づくり講習会』を計画していたが、感染拡大で変更を余儀なくされている。市の助成も受けながらの企画であり、何とか実施したいもの。皆様からアイデアをいただきたい。

⇒古川 例えば…準備してあるキットは事前に配布し、作り方はZoomやYouTubeなどで解説し、それぞれの自宅で制作してきてもらうなどの方法はどうか？

その方法が最も現実的か。所員の感染対策という側面も重要であり、オンライン環境を利用した方法を検討していきたい。

谷野[ボネール]

現在のところコロナ感染者はない。毎朝の体調確認をお願いし、変化あれば必ず連絡をもらうようにしている。症状により直ぐにPCR検査を受けてもらっている。ワクチン接種は職員含めひとつの医療機関で接種できるよう調整を進めている。

夏季休業中でもありカフェは賑わってはいるが、純粹に喜ぶべきか…複雑だ。8月上旬には自由活動として、梁川美術館で開かれている“星野富弘「花の詩画展」”の観覧を予定している。学生の実習および支援学校からの実習受け入れも問い合わせあり対応していく。

見学した“だて支援学校”は素晴らしかった。スロープの作りは傾斜緩やかで好いが、折り返し(踊り場?)での危険はあるのかもしれないと感じた。

長澤[ILセンター]

まず、だて支援学校見学会の企画にお礼申し上げる。

7/7 福島県障がい者自立生活推進連絡会役員会を開催した。会の活動を知ってもらうためホームページを立ち上げ、広く活動の中身を発信していくという内容話し合われた。

7/30日には勉強会が開催予定。障がい者が抱える「二次障害」についてのもの。脳性まひによる体の緊張が原因で起こる痛みを二次障害というが、これは歳を重ねることで出現してくる。それに関する勉強会として郡山ILの会主催で開催される。当初集合型で開催予定も、ZOOMによるオンラインに変更。

佐野[なのはなの家]

福島市が開催している出前講座を受講した。お口の健康と歯みがきの指導をはじめ、内科疾患や高血圧などの血液疾患までに及ぶ内容だった。4回目ワクチン接種は、各自の予約にて、ぼちぼち進み始めている。

野地[青松園]

個人外出に関して緩和いくつかの留意点設け外食も可能としていたが、感染者激増を受け7/21に制限強化。その代わりでもないが、買い物外出に関してこれまでより長い時間を設けて実施している。

納涼祭に関しては地域の方々の参加は見送り。雰囲気は味わっていただきたく櫓は組むことに。各出店は職員で担当しながらの開催となる。

千葉[もちずりワーク]

大きな行事は控えている状況、小グループでの近隣の外出のみ。利用者自身あるいはその家族の発熱などあり落ち着かないが、陽性者は出ていない。

農産物は生活介護の中で地道に続けている。豊作であった場合、子ども食堂に寄付するなどしているが、保管・貯蔵できる設備も必要かと資金調達に動いている。

今年度、法人内すべての事業所に実地指導入った。現在結果待ちの状況。またアルコール検知器については既に取り入れていた。

舟山[けやきの村法人]

法人内4事業所に対する実地指導あり。そこでカスタマーハラスメント対策の未整備について文書指摘あった。体制づくりや研修、マニュアルなど、整備できていれば参考にさせてほしい。

⇒これに関しては、特に介護保険の訪問系サービスで顕在化しており、その流れでの指摘か。利用者本人からの例に限らず、その家族からの高圧的な物言いなども現実ある。整備済みの事業所はなし。

道の駅ふくしまでの7月販売会は感染拡大の状況から中止とした。8月も厳しい状況と考えられ、中止の方

向で周知を行っている。今年度も福島学院大はじめ4名の実習生を受け入れる。

スイーツコンテストに関して、先般メールにての参加事業所募集を市障がい福祉課から行ってもらっている。現在桜の聖母短大の学生さんとコラボし、商品の初期開発を担ってくれる事業所も募っている。今後東陵高校への打診行いながら、スイーツコンテストにおいて新商品のお披露目できれば良い。

木戸[大生しのぶの里]

だて支援学校見学できよかった。事業所において見学報告を行い情報共有した。

いきいき福祉マーケットが中止となり、その代替企画としての販売会は、事業所の都合上参加見送った。8月に開催されれば是非参加したい。トマトは苗植え終了し、その後天候に恵まれ生育は順調。8月下旬には初収穫となる見込み。

大笹生支援学校教員の現場実習受け入れ。就B事業所にて一日体験していただいた。

車両運行時のアルコール検査。10月からの義務化を前に6月中から検知器を使用した確認を始めた。コロナ感染者激増により、放課後デイをお使いの学童の方々に利用控えが見られ始めている。

全国手をつなぐ育成連合会発行誌「てをつなぐ」8月号に、我が事業所のトマトを使った料理レシピが紹介される。ご覧いただければと思う。

古川[父の夢]

6/27第1回福島市いきいき共生推進委員会開催。新委員長に福島学院大教授の遠藤寿海氏が就任。

障連協からは加藤圭子氏(つくしの里) 舟山氏 古川が参加。障がい者計画・第6期障がい福祉計画・障がい児福祉計画等についての協議。

委員会の体系および部会ごとの専門的協議事項などについては、後に資料として配布、共有をしていきたい。

法人としては来年度4月から、飯坂町平野に生活介護事業所を開所する。平野中学校にほど近い場所。災害時における一般避難所である平野中に加え、福祉避難所として機能できる体制を整えたいと考えている。

各施設、利用者の家族がコロナ感染という事例があちこちで発生し、結果的にスタッフ不足となる場面多い。八木田・南矢野目たがいに職員の行き来をして欠員の補充をしながら凌いでいる。

障害者就業・生活支援センターの実地指導があった。センター経由での就職者はこのところ60名程度。その80%から85%程度が就労を継続できており、それには就職後のサポートの充実が不可欠であり、労働局も同じ見解であった。

岡崎[おおぞらの夢]

大きな行事は控えている現状。連日コロナ感染数の記録更新を前に、小集団での外出行事を継続している。

ニコの夢では、農福連携事業でのジャガイモ収穫作業で大笹生に出向いている。もう一方では、赤い羽根共同募金会から急速冷凍庫をいただくことができ、現在「ギョウザ」の商品開発を行っている。試食サンプルの段階であるが、今後風味づけや大きさなど煮詰めていく。

おおぞらの夢でもミニ菜園を作りピーマンや玉ねぎなどを栽培した。折に玉ねぎの価格高騰があり、瞬間に売れてしまった。ほかにオクラや枝豆の栽培中で今後収穫予定。

P.S. ふくしまユニバーサルデザイン推進会議に参画することとなった。障がい・高齢など福祉分野および建築・土木などの分野から委員を募り協議する。皆様からの要望などあれば、お知らせいただきたい。

黒田[きらら]

前定例会以降大きな行事はなし。8月初旬の「きらら夏祭り」について感染対策をこれまで以上に意識しながら、できるだけ楽しんでいただけるよう企画中。

感染者の激増のあおりで家庭内での不安も高まっている。検査受けられる場所探しでも苦勞する家庭も実際あり、きらら側で手配した場面などもあった。一方では行動制限のない中、感染対策を念頭に置いた行動をどのように捉えるかは各家庭で相当な開きがあると見受けられる。事業所として、どこに重きを置いて考えどのように伝えていくかが悩ましい。

孝浩[旅行を考える会]

だて支援学校の見学会には、定員を超える参加希望があり企画側として喜ばしかった。その学校の福祉避難所としての機能にも大いに期待したく、継続的に働きかけをしていきたいと思う。

会としては秋の県内バスツアーを企画していたが、BA-5感染の推移を8月いっぱいの中で見極めながら実施について検討していく。

渡部[大萱荘]

6月、感染状況の落ち着きを受けグループでの小旅行など再開していたがここきて実施見送りとしている。やはり、子供のいる家庭での感染例が多い。週末の日中一時支援などは、入所の利用者と同一空間での受け入れとならざるを得ず、地域のニーズに応えるということと、入所の利用者を感染から護るということの狭間で難しい判断を迫られる。入所利用者の帰宅についても、制限止むなしか。

次回 第173回定例会;令和4年8月25日(木) ZOOM 利用によるオンライン開催とする。